



巻頭インタビュー 京都大学理事・副学長 東山紘久先生

インタビューパートナー：
京都大学キャリアサポートセンター長
鱸淳一さん

己が行く道は、 己が信念によって選び、 決断せよ

取材・荒巻航平・石津衣理・竹内恵理奈

関西の雄、京都大学の名誉教授に会うー寝台列車に揺られ、流れていく夜景を眺めながら、私はまだこの大きさをハッキリとわかりかねていた。お相手がプロカウンセラーであり、ベストセラー作家でもあることはわかっている。ともかく行ってこいと背中を押されたものの、自分に一体何が聞けるのだろうか？と素朴な疑問がいつまでも付きまとった。

翌朝午前10時。快活なキャリアサポートセンター長に連れられ、古都の美しいキャンパスの一室でご本人と向き合った。想像とは少し違い、チャーム的な笑顔を絶やさない、相対しているだけで心が穏やかになるような人である。おかげで緊張の糸がスルリとほどけた私は、リラククスし過ぎたせいか、きつと幾つも失礼な質問を投げかけてしまったに違いない。それでも先生は、東京から体当たりの飛び込んできた学生の無謀さをやんわりとたしなめられながら、穏やかな語り口で、目の前に続く道筋を少しずつ、明るく照らし出して下さったー

学ぶ場としての京都大学

学生…国立大学が法人化されて、2年が経ちます。大学内部の具体的な変化を教えてくださいませんか？

東山先生(以下敬称略)…まず、組織が変わりましたね。それから、日本の国立大学は欧米に比べると学費が高いのですが、残念ながらその学費も値上がりしました。法人化の良い点として、競争的資金の獲得に熱心になること。一方で予算は窮屈になりました。欧米を引き合いに出すと、GNPにおける国立大学の予算が欧米では1%なのに對して、日本は0.5%です。国の研究機関としては、ぜひ1%にして欲しい。

学生…そうした中で、京都大学が学生獲得の為に取り組んでいらっしゃることは何でしょうか？

東山…京都大学の理念に「まず学問ありき」という考え方があります。一概に学生獲得の為にというよりも、まずは皆さんに学ぶ場としての京都大学を知って欲しい、という思いがあります。そこで、オープンキャンパスや模擬講義といった高校生向けのものに加え

て、中学生向けのジュニアキャンパス、中高年向けのシニアキャンパス等、幅広い層に向けて紹介活動を行っています。「京都大学」という名前は知っているけれど、では一体どんなことをしている場所なのか？それを知ってもらえれば、と思っています。

学生の変化について

学生…先生は京都大学のご出身ですが、ご自身の在学中と比べて、学生は変わったと思われませんか？

東山…本質的には変わっていないと思います。ただ、世間が変わっていますからね。例えば、相対的に見ると大学に入りやすくなっている、そういう変化は当然あるでしょう。

今の学生は授業に熱心です。出席率が非常に高い。昔は授業より自分のやりたいことをするみたいな風潮がありました。

学生…出席といえば、最近は大学での出欠を厳しくする流れがあるようですか？

東山…京大では、出欠は各教授の裁量に任されています。僕はとらなかつた方。学生にとっても、良い面悪い面がありますからね。出欠をとらないということは、試験一発勝負なわけで、一生懸命授業に出ている学生の努力が評価されない。一方で出欠をとるということは、当然学生の自由を拘束することになる。

ただ、出欠日数に対する成績が問題になることはあります。これだけ授業出ている、答案がこれっぽっちかい、みたいなね。(笑)逆に、数日しか出席してないのにすごいレポートを書けば、それだけで評価されます。

学生…なるほど；確かに学生にとっては一長一短ですね。ところで、先生は在学中にどんな学生でしたか？

東山…僕は在学中にインターカレッジのサークルに入って、キャンプのインストラクターみたいなことをやりました。年に50日はキャンプをしていましたから、4年で200日；大学自体には3年ちよっとしか通っていません。計算になるな。(笑)でもね、僕は元々臨床心理学がやりたくて京大を選びましたから、勉強は良くやったね。一番やったのは大学院の頃だけど、学部時代も専門書はたくさん読んだ。とはいっても、やりたいことやってるわけやから、勉強しているという感じでも無かった。

自分で考え、自分で選び、自分で決断せよ！

学生…先生はプロカウンセラーでもあられますが、専門家の視点から見ると先生はどうでしょうか？

東山…京都大学では外来者向けも含めて多数のカウンセリング窓口を設置していますが、他大に比べると相談件数が倍です。

学生…それだけ人に頼るようになっていく、ということでしょうか？

東山…まず基本的にカウンセリングというものはね、頼らせてはダメなんです。こちらが何かを解決するのではなくて、自分が解決するようになっていくことがカウンセラーの仕事です。だから、頼ろうとしても頼らせません。例えば、キャリアサポートセンターではキャリアアカウンセリングを行うわけですが；詳しくは鱸さんから言っても良かった方がええな。(笑)

鱸センター長(以下敬称略)…東山先生のおっしゃる通り、キャリアアカウンセリングでも、最終的には自分で考えて決める方向にもっていきますね。例えば「良い会社を教えてください」という学生が良くいるのですが、紹介できる「良い」会社は何百とあるんですよ。大切なのは「どう」「良い」会社を本人が求めているのか」なんです。給料が良い会社なのか、福利厚生がいいのか、福利厚生のしつかりした会社なのかとか。そこをこちら基準だけで「ここは『ええ』企業やから行け！」ということとはしたくない。

というの、自分の軸で選ばないと、長続きしないわけです。安易に選ぶと、何かあった時に踏ん張りが利かない。「自分で決めたんやから」という、確固とした幹が無いと、驚くほどもろいですね。

東山…その通り。さっきの質問に戻るけど、人に相談するということは、必ずしも「頼る」ということでは無い。逆に、一人だけで考えていると視野狭窄になってしまう可能性があるから、相談することは視野を広げる為にも大切です。しかし、より大切なのは最後に決断するのは自分である、ということです。

これは京都大学の教育方針ですが「自分で考えて、自分で選び、自分で決断せよ」と。基本的に自由の学風ですから、何を選び、どう決断するかは自分で行う自由がある。例えば、大学に入ったらアメフトを頑張ろうと思つて入ってきた学生がアメフトに打ち込む。一方で、在学中に小説を書いて芥川賞をとった学生(※平野啓一郎氏)がいる。何に打ち込むかを決めるのは、全て自分です。自分で決めたことは、踏ん張りが利くんです。何か問題があった時でも、それを続けられるのかどうか、困難に打ち勝って続けられる力か、養うのが京都大学の教育方針です。

僕が臨床心理の勉強をしていた頃は、こんなものは学問とちがうと言われていた頃です。それでも、自分でやりたいと思うことだったから、好きだったから、そういう世間の空気に対して「なにくそ」と思つてがむしゃらにやりました。今はどうですか？臨床心理士はこの大学も定員オーバーの大ブームでしょう。逆にブーム過ぎて、適性の無い学生も入るようになってきている。これはこれで問題です。

とにかく、京都大学の学生には、自分の基準の長期的な視野を持つて欲しい。また実際に多くの学生がそれを持っていると思います。

京大生の強さの秘訣

鱸…そういえば、京大の卒業生の就職先は、うまく各業界に分散されていますね。今年も多くは多くの大学で、金融業界への内定の割合が増えているようですが、京大生は各業界とも比較的均等です。

東山…「みんなが金融に走ったら、他の業界が人手不足になるんちゃうか？」と思うんやろね。(笑)そういう視点を持つていてくれるのが嬉しい。もう一つ例を挙げるとね、大学院入試の数学で出題ミスがあったのですが、受験生の中に「これは問題が間違っている」と理解して解答した学生がいたんです。問題が絶対に合っている、という前提そのものを疑う力を持っている。つまり、自分で考える力を持っている、ということなんです。

学生…受験生を含めて、大学全体にそういう空気があるんですね。個人主義的というか、どこか日本的で無い感じもしますが；

東山…一見バラバラの方を向いていますが、お互いを信頼しているからだと思います。学生運動も、今は随分下火

■プロフィール

東山 紘久 Hirohisa Higashiyama
1942年生まれ。京都大学理事・副学長。京都大学名誉教授。

京都大学大学院修士課程修了、教育学博士。専攻は臨床心理学。大阪教育大学教授などを経て04年より現職。

大学経営に携わる傍らで、臨床心理士としての経験を生かし、一般向けの心理学書を数多く執筆。ベストセラーとなった「プロカウンセラーの聞く技術」に始まるプロカウンセラー・シリーズは、わかりやすい事例を交えた深みのある解説で、多くの人々に親しまれている。近著に、妻の東山弘子氏と共同執筆した「プロカウンセラーが読み解く女と男の心模様」がある。

■書籍情報

鱸 淳一 Junichi Suzuki
1956年生まれ。京都大学キャリアサポートセンター長。
早稲田大学第一文学部卒業後、同年に(株)毎日コミュニケーションズ入社。名古屋支社長、大阪支社長、毎日就職ナビ編集長などを歴任し、大学生と企業のパイプ役をつとめる。04年より中国広東省にて日中人材の開拓を行う。06年帰国後、現職に就任。

■書籍情報

『プロカウンセラーの聞く技術』
創元社 ISBN:4-422-11257-0



阿川佐和子さんも絶賛したベストセラー。プロの極意を身につけて、今日からあなたも「聞き上手」な人になろう！

『プロカウンセラーのコミュニケーション術』
創元社 ISBN:4-422-11334-8



コミュニケーションを円滑にするキーは「観察」にあり。『聞く技術』から一歩進んで、「話す」技術を身につけたい人にオススメの1冊。

『プロカウンセラーが読み解く女と男の心模様』
創元社 ISBN:4-422-11375-5



男女の気持ちのすれ違いは何故起こるのか？普遍的なテーマに、心理学者の夫妻が挑む。社会人になって、結婚して、年をとっても、この本の知識はきっと役立ちます。



東山…最後に若者へメッセージをお願いします。
東山…伝えたいことは二つ。一つは、

「専門家だからわからないことがある」
学生…最後に若者へメッセージをお願いします。

自分の信念で物事を決めること。二つ目は、信念で物事を決めるために、人間を信頼し、信頼できる人の話を良く聞くことです。
この二つは決して矛盾しない。自分一人の視野は思いのほか狭いものです。例えば、今後は後ろが見えないけど、あなたの目を借りれば背後が見えるようになる。何でもそうです。一人より二人、二人より三人の方が世界はより広く見える。そうして視野を広げた上で、自分の信念によって選び、決断せよ、と。
みんなで雪崩を打って同じ方に行ってもね、個人個人の能力はなかなか活かせません。みんなが金融に行ったら、生産業はどうなる？という視点をぜひ持つて欲しい。

「自分の軸をどこにおくか」ということを在学中に考えてみて欲しい。僕の頃は、比較的猶予期間が長かったけど、今は早い段階で軸を定めないと、時代の流れが早い分置いてかれてしまうかもしれない。そういう意味で、ますます自己実現が難しくなってきている、と感じますね。
東山…情報をコントロールできる人間になれば、ということでもあります。時代の流れが速いというのはその通りで、わが校も一昔前は「学生はほっといたらええやん、自然に育つわ」という考え方でしたけど。(笑)最近では、自分一人ですら力に付けることがなかなか難しくなってきた。そういう意味で、最後に決めるのはあくまで自分だけれど、きっかけとして専門家の力を借りる必要がある。それで鱸さんのような、民間の経験者をお

呼びびているわけです。
鱸…恐縮です…
東山…まあ、せやけど専門家言うてもね、専門家やったら何でもわかるというわけではないですよ。僕はカウンセリングの専門家だけど、わからないものはわからない。「専門家だから何でもわかる」のではなくて、「専門家『だから』わからない」問題があるのです。就職で言えば、自分の行く企業が明日どうなるか、正確には誰にもわかりません。未来は神仏(かみほとけ)の世界ですからね。そういう中であつて、やっぱり何かを選び取る時に最後に頼るのは、自分の信念だと思っわけです。(2006年9月京都大学理事室にて取材後記)
「思わず自分の話をしそうなぐらい引き込まれてしまいました」(竹内)
「すべてを見通されてしまいました。優しげな感じもあり、何でも相談できそうな、優しい人でした！」(石津)